

公 開  
資 料 3

第 3 3 6 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和5年1月5日

日 本 学 術 会 議



# 公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
<b>Ⅲ 公開審議事項</b>						
<b>1. 委員会関係</b>						
提案 1	(課題別委員会) フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会設置要綱の一部改正(委員の構成の変更)	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長	3	小委員会委員の構成の変更に伴い、設置要綱を一部改正する必要があるため。	高村副会長	会則27条1項
提案 2	(若手アカデミー) 若手アカデミー運営要綱の一部改正(任期の変更)	若手アカデミー代表	5	会員数の安定確保のため、運営要綱を一部改正する必要があるため。	望月副会長	会則34条2項
<b>2. 地区会議関係</b>						
提案 3	地区会議運営協議会委員の変更の決定について	科学者委員会委員長	7	中国・四国地区より、地区会議運営協議会委員の変更の申出があったため。	望月副会長	地区会議運営要綱第6
<b>3. 協力学術研究団体関係</b>						
提案 4	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	9	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本離婚・再婚家族と子ども研究学会 ②小出記念日本語教育学会 ③日本英語英文学会 ④一般社団法人日本システムデザイン学会  ※令和5年1月5日現在2,118団体(上記申請団体を含む)	望月副会長	会則36条
<b>4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和5年度第1四半期】</b>						
提案 5	公開シンポジウム 「有人潜水調査船の未来を語る(仮)」 の開催について	地球惑星科学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	11	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会 日時：令和5年6月17日(土)13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂(ハイブリッド開催) ※第二部・第三部承認	—	内規別表第2

5. その他のシンポジウム等						
提案6	公開シンポジウム 「デザインの概念とその広がりー社会的理解をめざして」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	13	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会 日時：令和5年2月4日（土）13：00～17：10 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案7	公開シンポジウム 「数理・データサイエンス・AI時代における統計科学の教育及び研究について」の開催について	数理科学委員会委員長	15	主催：日本学術会議数理科学委員会数理統計学分科会、数理科学委員会数学分科会、数理科学委員会数学教育分科会 日時：令和5年2月17日（金）13：30～15：30 場所：日本学術会議講堂、他1会議室（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム 「子育て支援の継続性を高めるためにー新たな視点の提案ー」の開催について	健康・生活科学委員会委員長	17	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会 日時：令和5年2月24日（金）13：30～16：40 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）又はオンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム 「第8回理論応用力学シンポジウムー力学の深化に向けてー」の開催について	機械工学委員会委員長、総合工学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	19	主催：日本学術会議機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会 日時：令和5年3月10日（金）13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂、他1会議室（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2

## 6. 後援

提案10	国内会議の後援をすること	会長	23	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。  ①日本生理学会第100回記念大会 企画シンポジウム「分野横断型プロジェクトが牽引する科学の未来」 ②第32回国際MICEエキスポ（IME2023） ③日本天文学会ジュニアセッション ④日本天文学会全国同時七夕講演会2023	会長	後援名義使用承認基準3（2）ウ
------	--------------	----	----	---	----	-----------------

## 7. その他

件名		資料(頁)
参考1	審議依頼について	25
参考2	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年1月26日（木）14:30～開催。	27

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会設置要綱（令和2年10月29日日本学術会議第302回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(分科会) 第4 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。				(分科会) 第4 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。			
分科会	調査審議事項	構成	設置期限	分科会	調査審議事項	構成	設置期限
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会	(略)	(略)	(略)	持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
ESD/SDGs カリキュラム小委員会	1. フューチャー・アース計画が提起している教育と人材育成に関して、SDGs と ESD という視点からの諸課題の整理と検討 2. 学校におけるSDGs・ESD に関するカリキュラム開発 (地域社会との連携も含めた探究	20名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	設置期間： 令和3年5月27日～ 令和5年9月30日	ESD/SDGs カリキュラム小委員会	1. フューチャー・アース計画が提起している教育と人材育成に関して、SDGs と ESD という視点からの諸課題の整理と検討 2. 学校におけるSDGs・ESD に関するカリキュラム開発 (地域社会との連携も含めた探究	15名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	設置期間： 令和3年5月27日～ 令和5年9月30日

		的課題について に関すること					的課題について に関すること		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)					(同左)				

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

若手アカデミー運営要綱（平成26年10月23日日本学術会議第204回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>(若手アカデミー会員)</p> <p>第3 若手アカデミーは、期ごとに会員又は連携会員（以下、「若手アカデミー会員」という。）をもって組織する。</p> <p>2 若手アカデミー会員は、45歳未満である会員又は連携会員のうちから、積極的な参加意思を持つ者を選考し、日本学術会議幹事会（以下、「幹事会」という。）が決定する。</p> <p>(略)</p> <p>4 一人の会員又は連携会員が若手アカデミーに所属する期間が通算<u>9</u>年に達した場合又は満45歳に達した場合には、その期をもって若手アカデミーへの所属を終えるものとする。<u>ただし、この通算期間には、日本学術会議会則第7条第1項に基づく連携会員として若手アカデミーに所属する期間を含まないものとする。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(若手アカデミー会員)</p> <p>第3 若手アカデミーは、期ごとに会員又は連携会員（以下、「若手アカデミー会員」という。）をもって組織する。</p> <p>2 若手アカデミー会員は、45歳未満である会員又は連携会員のうちから、積極的な参加意思を持つ者を選考し、日本学術会議幹事会（以下、「幹事会」という。）が決定する。</p> <p>(同左)</p> <p>4 一人の会員又は連携会員が若手アカデミーに所属する期間が通算<u>6</u>年に達した場合又は満45歳に達した場合には、その期をもって若手アカデミーへの所属を終えるものとする。</p> <p>(同左)</p>

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。



地区会議運営協議会委員の変更の決定について

○中国・四国地区会議運営協議会委員の変更について

	氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
退任	笠 潤平	香川大学教育学部教授	連携会員
新規	堤 英敬	香川大学法学部教授	連携会員

※変更後の運営協議会委員数：12名

【参考】

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（地区会議運営協議会及び事務局）

第6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

2 各地区に所属する会員は、互選により9名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は12名を超えないものとする。

## 第25期中国・四国地区会議 運営協議会委員

◎：代表幹事

氏名	所属・職名	備考
◎相田 美砂子	広島大学特任教授・学長特命補佐	第三部会員
市川 哲雄	徳島大学大学院医歯薬学研究部教授	第二部会員
狩野 光伸	岡山大学副理事・大学院ヘルスシステム統合科学研究科教授	第二部会員
坂田 省吾	広島大学大学院人間社会科学研究科教授	第一部会員
仁科 弘重	愛媛大学学長	第二部会員
堀 利栄	愛媛大学副学長・大学院理工学研究科教授	第三部会員
荊木 康臣	山口大学大学院創成科学研究科教授	連携会員
河田 康志	鳥取大学理事・副学長	連携会員
小林 祥泰	島根大学医学部特任教授、島根大学名誉教授	連携会員
堤 英敬	香川大学法学部教授	連携会員
那須 清吾	高知工科大学経済・マネジメント学群教授、高知工科大学大学院起業マネジメントコース長	連携会員
松本 直子	岡山大学文明動態学研究所長・教授	連携会員

(令和5年1月5日現在)

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概要
1	日本離婚・再婚家族と子ども研究学会 ( <a href="https://jarcds.org/">https://jarcds.org/</a> )	本団体は、離婚・再婚家族への適切な支援のあり方を念頭におきながら、特に子どもの養育問題に着目し、子どもの意思への配慮及び利益の尊重と福祉の増進を目指して、これに関連する分野の学術的研究者や実務・実践に携わる者が協働して研究を推進し、もって社会に貢献することを目的とするものである。
2	小出記念日本語教育学会 ( <a href="https://koidekinen.org/">https://koidekinen.org/</a> )	本団体は、「現場と研究が一体となってこそ日本語教育の進展がある」との小出詞子(こいで ふみこ)先生(国際基督教大学名誉教授・姫路独協大学名誉教授)の考えに基づき、現場からの研究成果の共有及び理論を追究する研究者から現場への提案の場を構築することを目的とするものである。
3	日本英語英文学会 ( <a href="http://jaell.org/">http://jaell.org/</a> )	本団体は、英語学、英語教育学、英米文学及び英語圏の言語・コミュニケーション・文学・文化の研究を行い、併せてその成果の発表を通じ、内外の学会との交流を図ることを目的とするものである。
4	一般社団法人 日本システムデザイン学会 ( <a href="https://www.sdsj.org/">https://www.sdsj.org/</a> )	本団体は、社会科学、応用科学分野及びそれらの学際的分野におけるシステムの学術的かつ実務的な研究・開発そして教育を通して、広く人類に貢献することを目的とし、研究成果の発表、システムデザイン技法の開発、内外における関連学会・協会等との交流・情報交換・連携、関連資料の刊行等の活動を通じて、会員相互協力と資質の向上を促進し、学術・文化の発展に寄与することを目的とするものである。



公開シンポジウム  
「有人潜水調査船の未来を語る（仮）」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益社団法人日本地球惑星科学連合、日本海洋学会、一般社団法人日本地質学会（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）6月17日（土）13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

日本における有人潜水船の未来を語るシンポジウムの開催である。1971年から1980年の10年間「国際海洋調査の10年（International Decade of Ocean Exploration）」が国連で決議され、この期間に世界や日本における海洋科学技術は目覚ましく進展した。深海を探索する学術研究目的の有人潜水調査船の開発が同時に進行し、日本における深海研究は飛躍的に発展してきた。やがて、欧米を中心に民間主導の有人潜水船の開発・運用が活発となるものの、日本ではその機運は乏しいまま、現在に至っている。日本における有人潜水調査船はどうあるべきか、コミュニティの意見を広く集め、有人潜水調査の学術的な意義を明確にすることが重要である。加えて、科学者のみならず社会や国民の支持を集めることも同時に重要である。本シンポジウムでは、日本学術会議主催のもと関連する学協会に共催していただきながら、多様なステークホルダーの参加を促し、活発な議論を行いたい。

9. 次 第：

13:00～13:10 開会挨拶

窪川 かつる（日本学術会議連携会員、帝京大学先端総合研究機構客員教授）

13:10～14:50 第一部：有人潜水調査船と自然科学研究

講演1：世界と日本の有人潜水船の歴史

高川 真一（株式会社アミューザジャパン執行役員）

講演2：有人潜水調査船「しんかい6500」の操作性・機能性、無人機との比較  
（依頼中）

講演3：潜航調査に立脚した地球科学研究の発展

道林 克禎（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

講演4：潜航調査に立脚した生命科学研究の発展

高井 研（国立研究開発法人海洋研究開発機構超先鋭研究開発部門長）

上記4題に対する質疑応答

14:50～15:00 休憩

15:00～16:40 第二部：人間の感性、世界の機械化、自然科学研究

話題提供1：科学技術社会論：機械化と直感、機械のperformability（仮）

日比野 愛子（弘前大学人文社会科学部教授）

話題提供2：心理学：体験、感性、人間の創造性（仮）

山田 祐樹（九州大学大学院基幹教育院自然科学実験系部門准教授）

話題提供3：科学技術史（仮）

有賀 暢迪（一橋大学大学院言語社会研究科准教授）

パネルディスカッション

司会 川口 慎介（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門主任研究員）

16:40～16:50 コメント

鈴木 真二（日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授）

16:50～17:00 閉会挨拶

原田 尚美（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」  
（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「デザインの概念とその広がりー社会的理解をめざして」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会
2. 共 催：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本都市計画学会、一般社団法人日本計画行政学会、公益社団法人日本造園学会  
(予定)
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）2月4日（土）13：00 ～ 17：10
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

昨今の社会及び自然環境における諸課題の下で、都市及び地域の持続性を支える空間計画、施設計画・設計、マネジメントを推進するためには、既存の枠組みや空間単位を柔軟に横断・反復することが不可欠である。こうした多様な計画・設計・マネジメントの有機的統合を図るため、可視的で統合的な概念である「デザイン」への期待が高まっており、デザインをめぐる知の構築が求められている。

本シンポジウムでは、デザイン領域の広がり、造形デザインの価値、情報科学とデザイン、デザインの主体、自然と人間の関係構築のためのデザインなど、多様な視点から都市・地域をめぐるデザインについて考え、デザインすることの意味と可能性、幅広い価値の伝え方などについて議論する。地域の価値を高め、人々のウェルビーイングとソーシャル・キャピタルの充実を図り、経済価値をもたらすことを通じて持続的な都市・地域の実現に資するデザインのあり方に向けた手がかりを得る。

9. 次 第：

司会

小野 悠（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学准教授）

13:00 趣旨説明と解題

「都市・地域をめぐるデザインへの問い」

佐々木 葉（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授）

13:20 「デザインの社会的認識と評価」

田中 一雄（株式会社 GK デザイングループ・代表取締役社長／CEO）

14:00 「情報学におけるデザイン・デザインにおける情報学」

中小路 久美代（日本学術会議連携会員、公立はこだて未来大学システム情報科学部情報アーキテクチャ学科教授）

14:40 「デザインの主体をひろげるーコ・デザインの可能性」（仮）

上平 崇仁（専修大学ネットワーク情報学部教授）

15:10 「自然と人間をつなぐ土木デザイン」

星野 裕司（熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター准教授）

休憩（10分）（15：50～16：00）

16:00 総合討論

コーディネーター：佐々木 葉（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授）

パネリスト：講演者4名

古谷 誠章（日本学術会議連携会員、早稲田大学創造理工学部建築学科教授）

17:00 閉会挨拶

古谷 誠章（日本学術会議連携会員、早稲田大学創造理工学部建築学科教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「数理・データサイエンス・AI 時代における統計科学の教育及び研究について」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議数理科学委員会数理統計学分科会、数理科学委員会数学分科会、数理科学委員会数学教育分科会
2. 共 催：統計関連学会連合、特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合（予定）
3. 後 援：一般社団法人日本統計学会、応用統計学会、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人情報処理学会、日本行動計量学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本数学教育学会、一般社団法人日本経済学会、一般社団法人社会情報学会、一般社団法人経営情報学会、一般社団法人日本品質管理学会、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）2月17日（金）13：30～15：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）、会議室6-A（1）（数理統計学分科会の開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
本格的なデータの時代を迎えて、特に日本で関連の研究人材及び高度専門職人材が不足している中で、コンピュータサイエンス・数理科学・統計科学を融合した数理・データサイエンス・AI教育の体系化が構築されつつある。本シンポジウムでは、特に、統計科学の観点から、教育及び研究に関する現状と課題、国際動向、展望を多様な角度から議論し、社会発信の場とする。
9. 次 第：  
総合司会  
渡辺 美智子（日本学術会議連携会員、立正大学データサイエンス学部教授）  
13:30～13:45 開会挨拶及び趣旨説明  
竹村 彰通（日本学術会議連携会員、滋賀大学長）

13:45～14:15 講演Ⅰ 「AI 研究・教育の最新動向と課題（仮）」

杉山 将(国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センターセンター長、東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻教授、同大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻教授、同大学理学部情報科学科教授)

14:15～14:45 講演Ⅱ 「国際および国内産業界における統計的手法を活用した問題解決手法・シックスシグマ (Six-Sigma) の現状  
～統計プロフェッショナル育成と国際認証に関する課題と展望を踏まえて～」

石山 一雄 (中国質量協会シックスシグマ管理推進工作委員会専門家委員)

14:45～15:25 総合討論

司会：青嶋 誠 (日本学術会議連携会員、筑波大学数理物質系教授)

登壇者 (予定含む) :

石山 一雄 (中国質量協会シックスシグマ管理推進工作委員会専門家委員)、  
戸谷 圭子 (日本学術会議連携会員、明治大学専門職大学院グローバル  
ビジネス研究科教授)

中谷 多哉子 (放送大学情報コース教授)

竹村 彰通 (日本学術会議連携会員、滋賀大学長)

15:25 閉会挨拶

栗木 哲 (日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構統計数理研究所教授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム  
「子育て支援の継続性を高めるために—新たな視点の提案—」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）2月24日（金）13：30～16：40
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）又は  
オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

生活環境の変化、働き方の多様化が進む中、子どもが育つ豊かな環境を整備し、子どもの育ちはもとより保護者の子育てを支援することは、久しく日本社会喫緊の課題であり続けています。家庭が健康で充実した生活の場であるためには、子どもの成長に伴って移行する家庭生活の諸課題に対応することが必要です。しかしながら、子どもの成長発達の道筋を保護者が知って家庭生活の変化に対応していくには、家庭内の対応だけでは無理があり、社会からの支援が必須です。既に妊娠期からの切れ目のない支援を目指して様々な子育て支援事業が行われていますが、虐待、又は少子化への対策が目的とされ、課題解決型の支援事業となっています。各家庭への個別的な支援を行う訪問型の支援事業は母子保健分野に頼っているため、生活及び次世代育成力の総合的な向上を図る視点での訪問ではありません。また、母体の健康、家族・家庭生活、子どもの発達等、子育てに関する教育が初等中等教育で行われていますが、その後のライフステージでは学ぶ機会をもたないまま親になることが、保護者の不安や苛立ちを生む要因となっています。

そこで、母子保健分野と家庭生活の質（QOL）の維持・向上に関わる家政学が連携し、訪問員の研修に生活の視点を盛り込むこと、生涯教育の視点で親になるための準備教育の機会を提供することを提案します。

本シンポジウムは、全ての保護者が子どもと共にある生活とその変化を愉しみ、質を高め、より豊かであろうとするモチベーションを自ら維持する力を支える子育て支援を実現するため、子育て支援、生涯教育、児童学の専門家にご登壇いただき、議論を行う目的で開催します。

## 9. 次 第

司 会：鈴木 恵美子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学名誉教授）

13:30 開会挨拶

多屋 淑子（日本学術会議連携会員、日本女子大学名誉教授）

13:40 開催趣旨説明

守隨 香（日本学術会議連携会員、共立女子大学家政学部児童学科教授）

14:00 『子育て支援事業の最前線からみえるもの—繋がりとぬくもりの不足—』

新澤 拓治（社会福祉法人雲柱社子育て支援コーディネーター）

14:25 『子育て期の家族のウェルビーイング—予防的子育て支援の重要性—』

浅野 みどり（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻教授）

14:50 『すべての人が子育て力をもつために—生涯教育からの提案—』

工藤 由貴子（日本学術会議連携会員、和洋女子大学総合研究機構特別研究員）

15:15 『子どもの育ちに還元される子育て支援』

田代 和美（和洋女子大学人文学部教授）

休憩（10分）（15:40～15:50）

15:50 全体討議

16:30 閉会挨拶

都築 和代（日本学術会議連携会員、関西大学環境都市工学部建築学科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「第8回理論応用力学シンポジウムー力学の深化に向けてー」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会  
合同理論応用力学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本工学会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本風工学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本レオロジー学会、公益社団法人農業農村工学会、日本計算数理工学会、日本混相流学会（予定）
3. 後 援：公益社団法人自動車技術会（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）3月10日（金）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）  
会議室6-A（1）（理論応用力学分科会開催のため）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
古典力学は、機械工学におけるいわゆる4力学（機械力学・材料力学・流体力学・熱力学）のように、学問分野ごとに確立された基盤学問のように捉えられがちである。しかし、力学が対象とする問題の多様化に伴い、様々な学問分野にまたがる未解決の力学の問題が顕在化してきている。これら諸課題に取り組むためには、既存の基盤学問領域の枠にとらわれない広範囲な学問分野との融合が必要である。本シンポジウムは今回が8回目となるが、上記を背景に、古典力学研究の裾野を広げうる先端的研究に関する最新動向を俯瞰す

ると同時に、古典力学を基盤とする研究者が異分野と協働して新たに開拓すべき次世代力学研究の展望・討論を重ねてきた。今回は、講演会の前半は、カーボンニュートラルをキーワードに、この分野で活躍している研究者の方々にご講演をいただく。第8回の招待講演は燃料電池における輸送現象、最近注目を浴びているアンモニアの燃焼技術など再生可能エネルギー利用の核となる科学技術に関する内容を中心とした。後半は、IUTAM・国際連携小委員会のメンバーで、日本で活躍する外国人研究者が中心となり講演の企画を立てた。

## 9. 次 第：

司会：山西 陽子（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院機械工学部門教授）

13:00 開会の挨拶

前川 宏一（日本学術会第三部会員、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院都市地域社会専攻教授）

13:10 招待講演（1）「固体高分子形燃料電池内のマルチスケール水・酸素輸送現象解析－熱力学からはじまる持続可能なエネルギーシステムへの道筋－  
(Analysis of multiscale water and oxygen transport phenomena in a polymer electrolyte fuel cell -Toward sustainable energy systems from thermodynamics-)」

田部 豊（北海道大学大学院工学研究院教授）

13:40 招待講演（2）「カーボンニュートラルに向けたアンモニア発電技術開発の現況  
(Current Status of Ammonia Power Generation Technology Development Toward Carbon Neutralization)」

藤森 俊郎（株式会社 IHI 技監）

14:10 招待講演（3）「分子シミュレーションを活用した環境負荷の小さい冷媒開発  
(Molecular simulation aided approach in researches for environmentally friendly refrigerants)」

近藤 智恵子（日本学術会議連携会員、長崎大学大学院工学研究科教授）

14:40-15:00 （休憩）

15:00-16:50 IUTAM・国際連携小委員会企画

司会：Ettore Barbieri（国立研究開発法人海洋研究開発機構付加価値情報創生部門主任研究員）

挨拶：堀 宗朗（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構部門長）

講演

“Fully automatized optimization of ring-opening reactions in lactones via 2-step machine learning”

Prof Pierluigi Cesana (Kyushu University, Institute of Mathematics for Industry Associate Professor)

“How ocean freak waves are generated in the lab”

Prof Amin Chabchoub (Kyoto University – Hakubi Center for Advanced Research Associate Professor)

“Mechanics of flexible materials; from foods and toys to soft-robotics”

Prof Tomohiko Sano (Keio University Senior Assistant Professor)

他調整中

16:50 閉会の挨拶

高田 保之 (日本学術会議第三部会員、九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所特任教授・名誉教授、エディンバラ大学名誉教授)

17:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)



## ○国内会議の後援（4件）

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 日本生理学会第100回記念大会 企画シンポジウム「分野横断型プロジェクトが牽引する科学の未来」

主催：日本生理学会第100回記念大会

期間：令和5年3月15日（水）9:00～11:00

場所：国立京都国際会館（オンライン配信あり）

参加予定者数：約200名

申請者：日本生理学会第100回記念大会 大会長 伊佐 正

審議付託先：第二部

**審議付託結果：第二部 承認**

2. 第32回国際MICEエキスポ（IME2023）

主催：一般社団法人日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）、日本政府観光局（JNTO）

期間：令和5年2月16日（木）

場所：東京国際フォーラム地下2階「ホールE2」

参加予定者数：約500名

申請者：一般社団法人日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）会長  
猪口 邦子

審議付託先：国際委員会

**審議付託結果：国際委員会 承認**

3. 日本天文学会ジュニアセッション

主催：公益社団法人日本天文学会

期間：日本天文学会春季年会会期（令和5年は3月14日（火））

場所：立教大学構内及びオンライン（予定）

参加予定者数：約400名

申請者：公益社団法人日本天文学会 会長 山本 智

審議付託先：第三部

**審議付託結果：第三部 承認**

4. 日本天文学会全国同時七夕講演会 2023

主催：公益社団法人日本天文学会

期間：7月7日及び伝統的七夕の日（令和5年は8月22日（火））を中心とした  
7～8月

場所：全国各地

参加予定者数：約10,000名

申請者：公益社団法人日本天文学会 会長 山本 智

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

4 文科科第 6 4 6 号  
令和 4 年 1 2 月 2 7 日

日本学術会議  
会長 梶田 隆章 殿

文部科学省科学技術・学術政策局長  
柿 田 恭 良

### 論文の査読に関する審議について（依頼）

研究者の行動規範に基づく論文の査読において、昨今、論文投稿者が自らの投稿論文の査読に関与する事態が発生しました。査読に関しては、元来、研究者個人及び科学コミュニティの行動規範に基づき行われるべき重要な仕組みであると認識しておりますが、このような行為は研究者の社会からの信頼を失うとともに、科学に対する国民の信頼を揺るがし、科学の発展を妨げることに繋がるものであるため、適切な対応が必要であると考えております。

つきましては、査読の意義等を踏まえ、査読に係る研究者が直面する課題に関して、学術に関する各分野の有識者で構成されている貴会議において、下記の事項を御審議いただきますようお願いいたします。審議内容は、今後の研究公正の推進に関する参考にするとともに、研究機関での取組に資するよう周知いたします。

### 記

1. 査読の意義・重要性
2. 査読を実施する際の規範となる対応指針（投稿者、査読者、編集者など）
3. 査読を実施する際に想定される不適切な行為



## ○今後の予定

## ●幹事会

第337回幹事会	令和5年	1月26日(木)	14:30から
第338回幹事会	令和5年	2月22日(水)	14:30から
第339回幹事会	令和5年	3月23日(木)	14:30から

以降の幹事会日程は追って調整

## ●総会

未定